

東洋学園

東洋学園の校友をつなぐ

だより

平成30年

Vol.7

CONTENTS

- 旦祐介学長からのメッセージ 1
- グローバル化への取り組み 2
- 2018年上半年期ニュース／学生団体の活動 3
- 卒業生&在学生トピックス 4
- 教員メッセージ／社会で輝く卒業生 5
- 教育振興資金のお願い／東洋学園の歴史 6
- 大学院／入試 7
- インフォメーション 8

旦祐介学長からのメッセージ

「学生とともに、 グローバルな前進を」

今年4月1日、グローバル・コミュニケーション学部の旦祐介教授が学長に就任。大学のさらなるグローバル化とダイバーシティ（多様性）の尊重を目指す旦学長より学内の近況報告と校友の皆様へのメッセージをお届けします。



東洋学園大学 学長
旦 祐介 (Yusuke DAN)

東京大学教養学部教養学科イギリス分科卒業、米国アマースト大学教養学部卒業（政治学）、東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専門課程博士課程単位取得満期退学。学校法人東海大学国際本部長、東洋学園大学副学長を経て現職。国際政治学会会員、人間の安全保障学会監事。

多様性と学びやすさを大切に進化

同窓生の皆様、本郷キャンパスから近況をお伝えいたします。

2018年4月、新入生約750名を1号館11階の体育館で迎えました。学長の歓迎の辞は冒頭一部、簡単な英語で話しました。スピーチでは、日本国内も急速にグローバル化していること、自ら自律的に学ぶ喜びを知ってほしいこと、パスポートを取得して世界を見てきてほしいことなどを話しました。すべての学部の新入生が静かに聞いてくれたように思います。

全新生とは6月にも「学長との対話」で会いました。数十名ずつのグループで学長と対話し質疑応答しながら、大学生活の意味をよりよく知ってもらうことを目指して話しました。AI（人工知能）と共存するためにはどういった力を磨く必要があるか、学生たちもよく考えてくれて、英語での質問を含めて活発な議論ができました。それ以来キャンパスですれ違うときに挨拶をしてくれる学生が増えました。

卒業生の皆様、みなさんの中には、20年前ご卒業の方も、つい今春社会人になった方もいらっしゃいます。ともに21世紀を歩む現代人として、さまざまな変化に適応しながら、人生を歩まれていると思います。本学の新入生には西暦2000年生まれがいます。彼らはこの世紀を生き続ける新しい世代の人たちです。彼らの中には、入学して初めてパ

スポーツを取得して、イギリスに語学留学に行く男子学生がいます。毎昼休みに英米から来ているインターン生とともにイングリッシュラウンジで話すうちに、それまで考えていなかった長期留学をしたいと思うようになり、留学コーディネーターに相談に来る女子学生もいます。今秋にはオリンピック・パラリンピックのボランティアの公募が始まりますが、2020年に何か自分にできないかと思っている学生が200人以上大学のメーリング・リストに登録しています。

東洋学園大学は今年、ダイバーシティ宣言を掲げ、さまざまな文化、宗教、性意識、個性あるいは障がい等を持つ学生が、安心して学べるグローバルな大学を目指しています。両親の出身国が異なるいわゆるダブル（ハーフ）の学生たちも意外に多くいます。彼らは入学前から悩みつつも多文化理解を体得している人たちです。現在、本学は車椅子の学生が4名いる多様性の高いキャンパスになりました。

ご承知のように、本学は今春、1年から4年まですべての学生が本郷キャンパスで学ぶ都市型大学になりました。緑豊かで美しい流山キャンパスは、体育会の学生が練習に使っていますが、授業はすべて本郷で行うようになりました。この本郷集約の影響もあって、昨年度と本年度の入学者はいわゆる文科省定員を大きく超過し、教室稼働率はきわめて高く、食堂はとて混雑する活気溢れるキャンパスになっています。学生たちの最大の念願だったWifiは全館全フロアで使えるようになり、学生の満足度は高まったと思います。一部学生はWifiをオンラインゲームに使う（笑）のかもしれませんが、学生による授業評価アンケートもスマホで実施するようになりましたし、空き時間の自習や授業内での活用も期待しています。現に私の担当する国際関係論の授業は、bbc.comなどのサイトで日々のニュースを確認するところから始めています。教科書もe-book

を使っているので、受講生は満員電車でもスマホで予習しながら通学しているようです。

教員と学生、双方の意識を高める

少しだけ教育プログラム（カリキュラム）の話を行います。一般入試やセンター入試を利用する受験生を増やす努力もあって、入学する学生の学力が徐々に高くなってきました。これに合わせて、優秀な学生が授業環境や授業の質に幻滅して退学しないようにすることが求められています。上位学生を飽きさせないようにするには、教員の教育力が問われます。それまで教えた経験の少ない新任教員5名には、今年から全員外部の教員研修を受けてもらうことにしました。

もうひとつ、社会人になってからも自ら進んで学習する必要があることを学生たちに知ってもらいたいと思っています。たえず自分で問題を発見し、あるいは自分の興味関心や資格試験のために、検索したり、本を読んだり、YouTubeなどで観たりすることの重要性です。釈迦に説法で恐縮ですが、人生とは絶えず学び続けることだろうと思います。新しいことを発見した時の面白さや感動、いわゆるAha! moment（「あっそうか」効果とでも訳すべきでしょうか）を学生にも体験してもらいたいと考えています。

以上東洋学園大学の近況報告といたします。最後に同窓会のますますの発展を願うとともに、どうか母校をお支えくださいますよう、よろしくお願いいたします。



前学長
原田 規梭子

東洋女子短期大学学長、東洋学園大学副学長を経て、2014年4月より学長としてご尽力いただいた原田規梭子先生は、任期満了に伴い2018年3月末をもってご退任されました。



グローバル化への取り組み

より深く、バラエティ豊かに！
学内外にあふれる国際交流の機会

以前から国際交流に力を入れてきた本学ですが、今年度よりその体制をさらに強化。

グローバル化に向けた新たな取り組みについてお知らせします。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えたプロジェクトもご紹介します。



サマースクールで訪れたSHSUの学生と交流する本学の学生

短期留学の選択肢が増え
より多くの学生が参加

本学では、夏期・春期休暇を利用してイギリスやオーストラリア、アメリカ、カナダ、中国などに短期留学し、語学や文化を学ぶプログラムを以前から実施していますが、今夏は新たに韓国への短期語学留学をブレ開催。今年6月に協定校となった韓国・聖公会大学の夏期語学研修に3年生3名が参加し、韓国語や韓国の文化を学ぶとともに、週に1度の交流会を通じて現地の大学生や先生たちとの親交を深めました。約2週間の研修を終えた学生からは、「帰国後も韓国の人と交流して韓国文化をさらに深く学びたい」などの感想も。韓国語学習へのモチベーションが大幅にアップしたようです。



交流会を通じて仲良くなった現地学生とSNSや連絡先を交換し、放課後や休日にも親交を深めた。

2018年2月には初開催となるインドインターンシップのトライアルを実施。国際キャリアプログラム(ICP)の3年生2名が参加し、サイクリング用バイクを扱う現地の企業で1週間の就業体験を行いました。現地では、社員の方々やサイクリストから情報収集をしたほか、実際に早朝サイクリングも体験。それらを踏まえてツアーを企画立案し、海外ビジネスの現場を肌で体感しました。このプログラムは、2019年春より正式な短期留学プログラムとなります。



インド人サイクリストに向けたツアーを企画するにあたり、現地サイクリストへのインタビューも実施。

国際キャリアプログラムでは
過去最多の7名が学部留学へ！

国際キャリアプログラム(ICP)では、4期生が秋学期から学部留学に出発。今年度は過去最多となる7名もの2年生が

アメリカに留学しています。また、ICP初の卒業生となった1期生は、今年4月よりIT業界や航空業界などに就職し、グローバルに活躍しています。



留学前の結団式に参加したICP4期生。英語でスピーチを行い、留学先での目標などを語った。

SHSUがサマースクールを実施
今年は授業を通じた交流も

毎年行われているサム・ヒューストン州立大学(SHSU)のサマースクールが、今年も6月に実施されました。今年度はウェルカムパーティーや1泊2日の栃木旅行などの恒例イベントに加え、さまざまな授業にも参加したSHSUの学生たち。現代経営学部の「基礎英語」や英語コミュニケーション学科の「児童英語教育ゼミ」などの授業に加わり、本学の学生たちと交流しました。

さらに、現代経営学部「日本文化と観光産業ゼミ」(大村恵子教授)の学生らが、

SHSUの学生に築地市場とその近郊を案内する学外研修を実施。ゼミ生たちは築地周辺の観光資源や文化・歴史をリサーチし、半日ツアーを企画。築地場外を案内したり、寺社仏閣では歴史や文化を説明するなど、英語と日本語を交えながらガイド役として奮闘しました。



インバウンドビジネスの学びの一環として行われた築地での学外研修の様子。

学内国際交流の拠点
English Loungeが一新

海外からのインターンや教員と楽しく英語で交流できると好評のEnglish Loungeが、今春から1号館3階に場所を移してリニューアル。英語や海外文化を楽しむLounge Eventを定期開催しています。その一環として、6月には「ポランド・デー」を開催。本学の学生・教職員のほか、地域住民の方々にもご来場いただき、大いに盛り上がりしました。

東京2020オリンピック・パラリンピックを、学生の成長機会に！
「TOGAKU 2020プロジェクト」がスタート！オリンピックにゆかりのある
本学ならではの活動

東洋学園大学では、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)に向けて、学内における機運を高めて同大会の学生ボランティアを輩出すべく、「TOGAKU2020プロジェクト」を実施しています。東京2020大会の開催地「東京」に位置し、1964年大会の資料も多数所蔵するなど、オリンピックにゆかりのある本学。2014年には東京2020大会の大学連携協定を締結し、オリンピック教育の推進やグローバル人材の育成、パラリンピックの理解促進などを進めてきました。「TOGAKU2020プロジェクト」もその一環であり、学生一人ひとりが東京2020大会を「自分ごと」として捉え、自発的にボランティアとして大会に関わり、自身の成長につなげてほしいと願っています。

大学を挙げて
スポーツボランティアを推奨

東京2020大会へのボランティア参加を後押しするため、本学ではメールやポスターで学生にボランティア情報を発信したり、

説明会を開催しています。

昨年11月には、リオ五輪通訳ボランティア経験者をゲストに迎えた緊急シンポジウムを開催。また、今年6月・7月にはミーティングを実施し、9月から始まるオリパラボランティア募集の情報を共有しました。さらに、8月末に行われた外部説明会「大学連携18プログラム 東京2020オリンピック・パラリンピックボランティア募集説明会」に本学の学生2名と教職員が出席。東京2020大会でのボランティアの役割・活動内容等についての説明を受けました。

こうした活動を受け、スポーツボランティアに興味を持つ学生が増加しているのはもちろん、実際に活動を始める学生も着実に増えてきています。



6月のミーティングには2日間で約170名の学生が参加。

五輪資料展示やポッチャ体験会を
オープンキャンパス時に開催

8月に開催されたオープンキャンパスでは、特別企画として「TOGAKUオリ・パラ体験コーナー」を開設しました。会場には、本学が所蔵する1964年東京大会の五輪旗などを展示し、聖火用トーチを持って写真撮影ができるコーナーも設置。東京2020大会のボランティアを目指す学生有志が集まり、本学とオリンピックのつながりや、スポーツボランティアの役割などについて高校生に説明しました。

また、パラリンピック公式種目「ポッチャ」の普及活動の一環として、本学公認ポッチャサークル「TOGAKUパラスポーツ」に所

学園祭の会場でも
ポッチャ体験会を実施！

10月14日(日)、学園祭2日目に「ポッチャ体験会」を開催しました。都内で活動しているポッチャ普及サークルを招き、本学ポッチャサークル「TOGAKUパラスポーツ」との交流を行ったほか、一般来場者に向けたポッチャの紹介・体験を実施。子どもから高齢者まで幅広い世代が訪れ、大盛況となりました。



1964年東京大会の聖火用トーチを持った高校生を本学学生が撮影。

属する学生有志が、来場した高校生にポッチャのルールを解説しつつ一緒にプレーを楽しみました。

2018年上半期ニュース／学生団体の活動

グローバルに開かれた学びを実施

官学連携や産学連携なども積極的に行い、グローバルに開かれた学びを目指す本学。
2018年上半期に実施した取り組みや、各学部の最新トピックスを厳選してお届けします。

グローバル・コミュニケーション学部

日本語教育の学外研修を国内外で実施

日本語教員養成課程で学ぶ学生らが、夏休みを利用して学外研修に参加。国内では、本学の日本語教員養成課程で優秀な成績を収めている3年生3名がヒューマンアカデミー日本語学校東京校でティーチング・アシスタントとして授業に参加し、留学生への指導法や授業の進め方を学びました(写真)。また国外では、2～3年生4名がタイのチュラーロンコーン大学、DPU、国際交流基金バンコクオフィスを訪ね、現地の日本語教育について学びました。



現代経営学部

日清食品との産学連携でビジネスを学ぶ



「マーケティングとメディア研究ゼミ」(八塩圭子准教授)では、日清食品の協力を得て、同社の人気商品の売上倍増をテーマにした戦略を考案・提案するという実践的な産学連携プロジェクトを行っています。学生たちは日清食品の東京本社を訪問し、ブランド戦略や広報展開について理解を深めたのち、戦略立案のワークショップや中間プレゼンテーションなどを実施。11月に最終発表を行う予定です。

人間科学部

地域と連携したさまざまな活動を展開

人間科学部では、地元・本郷大横丁通り商店街で行われる納涼祭に毎年ボランティア参加するなど、地域と連携した活動を行っています。7月からは葛飾区と連携し、東金町中央自治会の方々と交流をしながら地域の活動や課題を調査・研究するプロジェクトがスタート。「人間と社会ゼミ1-2」(小山弘美講師)の学生が自治会の夕涼み会(写真)などに参加しながら学んでいます。



大学院の創立10周年を記念して
ネパールの大学と合同プロジェクトを実施



東洋学園大学大学院 現代経営研究科は、今年で創立10周年を迎えました。記念行事として、ネパールのKing's CollegeよりDr.Bharat P. Bhattaと大学院生5名を招き、本学の大学院生との合同リサーチプロジェクトを実施。「Urban Business Studies」をテーマに、日本とネパールの視点から「民泊ビジネス」や「ソーシャルビジネス」などについて共同研究し、研究発表を行いました。また、本学教授陣による特別講義・学外研修なども行われました。

文京区と「相互協力に関する協定」を締結
「文京アカデミア講座」の開講にも協力

今年3月、文京区と「相互協力に関する協定」を締結し、官学連携・協力体制を強化している本学。その一環として、文京区の生涯学習講座を本郷キャンパスで開講しています。2018年前期は、本学の阿部一教授による「『風土』から日本文化を考える」と、河島弘美講師による「アメリカ文学の名作を読む」を開講し、大盛況のうちに終了。後期は勝田薫教授の「アメリカ文化史を探る」と光川眞壽准教授の「誰でもできる健康体力づくり」を開講しました。



「MOS世界学生大会2018」日本代表選考会で
人間科学科4年の宮森万葉さんが日本一に!



マイクロソフト オフィス製品の使用スキルを競う「MOS世界学生大会2018」日本代表選考会に出場した宮森万葉さんが、パワーポイントで日本1位に輝きました。本学のエクステンションセンターでは、マイクロソフト オフィススペシャリスト(MOS)の資格取得支援講座を開講しており、宮森さんはこれを活用してスキルアップ。昨年に続き2度目の挑戦となった今年は、ノミスかつタイムも前年の自己記録を大幅に更新し、見事な成績を収めました。

学生団体活動レポート

各部活・サークルの活動内容をお伝えします。

男女テニス部

男子・女子とも3部リーグで健闘

9月の関東大学テニスリーグでは、男女ともに3部リーグで戦い、男子は強豪校との対戦に苦戦して1勝4敗、リーグ5位に。入替戦では実力を見せ、3部残留を決めました。一方、女子は5戦全勝し、リーグ1位に! 入替戦で惜しくも敗れ、2部昇格は叶いませんでしたが、来期に期待が持てる結果となりました。

個人では、8月の夏関(関東学生テニス選手権大会)本戦の女子シングルスで小松選手が準優勝。男子ダブルスの市瀬(3年)・神田(3年)ペア、女子ダブルスの二宮(2年)・羽柴(1年)ペアがともに2回戦に進出し、成長が見られ

た大会でした。また、8/13(月)から開催されたインカレ(全日本学生テニス選手権大会)では、本戦に小松選手(シングルス・ダブルス本戦)と林選手(ダブルス本戦)が出場。小松選手はシングルスで4回戦に進出してベスト16入り、ダブルスの小松・林ペアもベスト16に入りました。



硬式野球部

秋季は2部優勝、1部昇格を目指す!

春季リーグ戦を2部で闘った本学硬式野球部。最終戦では日大生物資源科学部と対戦し、猛打が爆発! 1イニング過去最多の14得点を含む大量23得点で快勝しました。

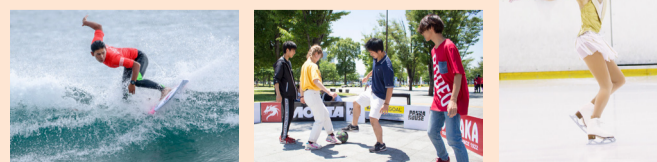
春季の成績は5勝5敗の4位。秋季は2部優勝、1部昇格を目指します。



公認サークル

サーフィン全日本5位、ストリートサッカー世界ベスト32の快挙!

サーフィンサークルの猪狩佑典選手が全日本サーフィン選手権 学連支部予選に出場し、メンクラスで準優勝。8月の全日本サーフィン選手権では5位に輝きました。また、大学公認団体としては日本初のストリートサッカーサークルが誕生し、部長の永井佑京選手がデンマークでの世界大会でベスト32入りを達成。今年新設されたフィギュアスケートサークルでも、戸室梨々奈選手が関東学生フィギュアスケート選手権大会に出場し、女子6級クラスで12位に。東日本初のボッチャサークルも新設され、活発に活動しています。



卒業生&在学生トピックス

話題のひと・活動

本学にゆかりのある「ひと」や「活動」にスポットを当ててご紹介するこのコーナー。東洋女子短期大学の卒業生でもある画家・鳥羽佐知子さんが栄誉ある賞をダブル受賞するなど卒業生・在学生を含め、たくさんの方々が多方面で活躍しています。

短大卒業生が絵画展にて受賞 ～70回記念三軌展～

東洋女子短期大学卒業生で現在画家として活躍中の鳥羽佐知子さんが、今年5月に開催された70回記念三軌展において、互井賞および秋田県由利本荘市亀田城佐藤八十八美術館賞のダブル受賞を果たされました。

三軌会は昭和24年(1949年)に画家の互井開一らによって創立された美術団体で、毎年5月に国立新美術館において公募展を開き、その後、仙台、名古屋、京都と巡回展を開催しています。

記念すべき70回目を迎えた本年の同展覧会において、創立者の名を冠した賞を受賞されたのは、作品への高い評価もさることながら、長年に渡る画業への功績が認められたものでしょう。

鳥羽さんは現在も千葉県内で美術講師をしながら日々画業に取り組んでいらっしゃいます。



鳥羽さんの作品は本学にていつでもご覧いただけます。「遙か」(2012年作、油彩・キャンバス) 2015年3月、本郷キャンパスに作品寄贈



鳥羽 佐知子(とば さちこ) (旧姓:星野幸子)

12回生 1963年(昭和38年)東洋女子短期大学 英語科卒業
画家として三軌会(評議員)、千葉県美術会会員(準依嘱)、八千代市芸術文化協会会員、日本美術家協会会員として活動。これまでに三軌会賞、損保ジャパン美術財団奨励賞を受賞、本年、互井賞/秋田県由利本荘市亀田城佐藤八十八美術館賞を受賞。

「遙かな日々」
(2018年作、油彩・キャンバス)
互井賞/秋田県由利本荘市亀田城佐藤八十八美術館賞

TOEIC910点獲得の学生をはじめ、成績優秀者を奨学生に認定

東洋学園奨学金の認定式が6月21日(木)に行われました。東洋学園奨学金は、経済的理由により学業の継続が困難で、成績が優秀な学生が対象になります。選考の結果、23名を奨学生として選出しました。

奨学生のうち2名は、東洋学園大学同窓会より去年の開学25周年に伴う寄付金分から選出となりました。この2人をご紹介しますと、1人はグローバル・コミュニケーション学部3年の男子学生で、今年7月にはTOEIC910点というスコアを出しまし

た。また、普段も本学の広報活動に協力し、学生団体の動画作成等を行っています。学外でも大きなイベントの出演アーティストの専属カメラマンを担当するなど、活発に活動しています。

もう1人は現代経営学部2年の女子学生で、本学でマーケティングを学び、将来は商品開発に携わりたいという希望を胸に日々勉学に励んでいます。

2人とも、普段から自強不息の精神を持ち、多方面で活躍しています。卒業後は立派に社会で活躍してくれることでしょう。



学園祭短大イベントで原田元学長講演

2018年10月13日(土)、短大同窓会主催フェニックス会において、今年3月に東洋学園大学学長を退任された原田規峻子先生による講演会が行われました。短大、大学の学長を歴任された原田先生の在職期間は49年。東洋学園就職秘話のほか、これまで貫いてこられた信念と学生への熱い想いについてお話いただきました。中でも多くの卒業生の胸に刻まれたのは「教養を深めるため、自分らしい生き方を探すために読書を読みましょう」ということば。集まった約50名の卒業生からは「今からでも遅くない、読書します」「先生の教えを娘に伝えていきます」などの感想が寄せられました。



講演会の様子



集まった卒業生とともに

教員メッセージ

これまで多くの卒業生を送り出してきた先生方からのメッセージをご紹介します。
今回はグローバル・コミュニケーション学部の大西先生と勝田先生です。



グローバル・コミュニケーション学部

大西 泰斗 教授

(専門分野：言語学 (英語学))

「私なりの成長のヒントを
若い皆さんのご参考までに」

東洋女子短期大学に奉職してから30年。時間が経つのは本当にあっという間ですが、若干成長した部分があります。ごく個人的な経験ですが、私を「成長」させてくれた事柄を、若いみなさんのご参考までに書き留めておきます。

□社会は未完成である：現在、私は英語教師の1人として、より効率的な教育手法や考え方を考案し、広めています。その根底にあるのは「社会は未完成である」という信念です。まだ何か私たちにできる・しなくてはならないことが必ずあるはず。

□異業種の交流こそ大切である：私は言語学が専攻で、その範囲にあることなら大概内容を知っています。今の仕事にそれが役立っているのは当たり前のことですが、それ以上に役に立ってきたのは異業種間の交流です。言語学とその周辺の交友関係からは得ることのできない知見を得ることができたように思います。

□仲間を作る：社会に出て一定以上のスケールで働くためには、「仲間」が必要です。仲間作りが苦手な人も多々いらっしゃると思いますし、私もその一人です。ですが自分なりの目標を掲げ、あらゆる機会を通じてそれを発言・発表していれば、いつか仲間はできるものです。

□能力配分・自分を許す：私がいつも思うのは、能力の配分は人それぞれ異なり、それに見合った目標を掲げればいい、ということです。自分だけが掲げることのできる目標を持ち、共感してくれる仲間を集めればいい。一番になれない自分に苛立つことはない。自分を許しながら、夢を追うことが大切だと思っています。

□笑顔・健康：目標を掲げ、仲間を作り、精力的に仕事をし、悔いのない職業生活を送るためにもっとも大切なのは、笑顔と健康です。同じ能力なら誰でも笑顔が素敵なのを仲間に選びますし、仕事の総量は健康な人に軍配が上がります。



グローバル・コミュニケーション学部

勝田 薫 教授

(専門分野：北米黒人文学)

「英語“で”喋れます。を目標に
語るべき内容の蓄積を」

2年間東洋女子短期大学の英語英文科で非常勤講師をした後、平成元年に流山の欧米文化学科に専任講師として採用されました。採用が内定すると、入試のお手伝いをするようになりました。当時は受験生が多くて、大手予備校の施設を複数借りて入学試験が行われていました。今でも鮮明に印象に残っています。

当時、欧米文化学科では新入生と一緒に箱根で一泊二日のオリエンテーションキャンプを実行していました。夜はミーティングをして、昼間はロープウェイ、芦ノ湖の遊覧船に乗り、また彫刻の森美術館を訪れました。担任する学生や同僚と親くなる良い機会となりました。

短大のときも4年制大学に移った後も、はつらつとしていて愛すべき学生たちに囲まれて、楽しく充実した30数年間でした。

さまざまな科目を担当しましたが、「コミックス」という科目が特に記憶に残っています。少しでも学生の英語に対する

苦手意識を解消してもらおうと設置された科目でした。若者が親しんでいる日本のマンガを英訳した単行本をテキストにして、日常生活で使える英語表現をインプットした後に、口頭英作文の形でアウトプットすることにより記憶に定着させる試みでした。授業準備のため、かつ個人的な楽しみのため、幾多のマンガを読みました。『寄生獣』や『逝き紙』などの名作と巡り合うことができました。昨今の若者はマンガも読まないとか。残念なことです。わが国には優れたマンガがたくさんあるのですよ。

「英語ができるようになりたい。」とは学生からよく聞くことばです。ですが、語るべき内容が伴ってこそその外国語です。「私は英語が喋れます。」ではなくて「私は英語で喋れます。」本学で一生懸命勉強して、語るべき内容をたくさん蓄積してください。大学生時代は勉強に打ち込めるラスト・チャンスなのでから。

社会で輝く卒業生

歯科医専、短大、4年制大学それぞれの卒業生をご紹介します。
社会でご活躍されている卒業生の姿から、本学の伝統や学びの歴史が感じられます。

旧制東洋女子歯科医学
専門学校

森 晃子さん



終戦後間もない1946(昭和21)年に入学、津田沼校舍第2寮に入寮しました。その活発さから翌年入学してきた旧制東洋高校(理科乙類)の男子学生に「エネルギータンク」とあだ名され、教職員組合の団交中は学生ながら先鋭的活動家として学校当局が身柄を「軟禁」、その間の話し相手は「小学生の坊ちゃん」、後に理事長、学長となる宇田正長先生でした。

本校最後の指定後25回生として1950年に卒業、GHQ361病院(同愛記念病院接收)、都立駒込病院に勤務しつつ、文京区駒込動坂町(現、千駄木4丁目)で開業、一男二女を育てました。作家の長女と演奏家の次女は本業の傍ら地域の魅力を掘り起こす谷根千工房を主宰し、歯科医院は長男が継いで盛業中です。お孫さんは10人。現在は千駄木5丁目の旧安田楠雄邸庭園で毎週水・土、ボランティアとして活動しています。昨年、米寿を迎えたことを記念し、本年8月に自伝『私の浅草 家族の千駄木』(森まゆみ編)を刊行しました。

※取材・史料室

森(旧姓:橋樹) 晃子(もり あきこ)

生家の水島家は日本橋で十代続いた小間物屋の増見屋。三姉妹の三女として1929年に生まれ、浅草で開業していた歯科医師・橋樹(たちばな)氏の養女となった。1950年に歯科医師となり橋樹歯科医院を継承、1952年に結婚し森姓。長姉の近藤富枝、長女の森まゆみは作家、実家筋の水島三一郎は化学者(分子構造論)。

東洋女子短期大学

生田 博子さん



私は20代半ば、たまたま旅行者として立ち寄った米国アラスカ州で見たエスキモー・イヌイットの踊りを見て非常に感銘を受け、彼らの世界に住み彼らの視点で世界が見たいと思い、人類学者を目指しました。前職のアラスカ州政府野生動物管理局では、アラスカで野生動物を狩猟して生活をする人々や気候変動が人々や動物に与える影響の調査をし、その調査結果をもとに州政府の条例や法案を作成したり、州政府代表として米国連邦政府や先住民政府の代表と野生動物に関する条例などに関する交渉を行う仕事をしていました。歳を重ねてきた両親ともっと時間を過ごしたいと思うようになり、一昨年、約20年ぶりに帰国。現在は九州大学で教鞭を執っています。

生田 博子(いくた ひろこ)

神奈川県鎌倉市出身。1994年東洋女子短期大学英語英文科卒業後、大手金融機関に就職。その後、米国アラスカ大学フェアバンクス校人類学部に編入、同校にて学士号と修士号を取得、英国アバディーン大学人類学部に博士号を取得。米国ダートマス大学極地研究所研究員を経て、アラスカ州政府野生動物魚類管理局にて主任研究員として勤務。現在、九州大学准教授。北極圏に住む先住民、気候変動が与える人々や動物への影響に関する研究が専門。

東洋学園大学

宜保 航治さん



大学2年の時に姉が証券会社に就職したことをきっかけに証券業界に興味をもち、その後積極的に経済の授業を履修しました。証券会社に就職し、実際に働いてみて面白いと思えることは、営業力だけで優秀な同僚達と

も張り合えること、勧めた商品でお客様に感謝していただけることです。また、勤務先には東洋学園大学出身の先輩が複数在籍しており時に業務上のアドバイスをいただけることを大変ありがたく感じています。

当社は中国株販売に強みをもっています。今年1月、アジアを代表する世界的な金融市場がある香港株式市場や深セン株式市場で開催される研修のメンバーにも選ばれ多くを学んだものの、まだまだ日々学ばないと追いつけません。今後も自強不息の精神を忘れず精進できればと思っています。

宜保 航治(ぎぼ こうじ)

沖縄県浦添市出身。2015年現代経営学部現代経営学科卒業後、東洋証券株式会社に就職。証券会社に勤めている姉の影響とマーケティングの講義で経済に興味を持ち、証券会社で営業職に従事、平成29年度年間総収入達成率社内1位。

東洋学園大学の教育振興基金へのご協力をお願い

学校法人東洋学園は1926（大正15）年に建学し、今年創立92周年を迎えます。この間、在学生のご父母・保証人や、卒業生各位のお力添えを賜り、高く掲げた理想の教育の灯を消すことなく、今日を迎えることができました。そして来る2026年には創立100周年を迎えます。

本学は①時代の変化に応える大学、

②国際人を育てる大学、③面倒見のよい大学、を標榜してきました。この目的を達するため、本年度よりキャンパスを本郷に集約し、全学生が4年間、本郷キャンパスで学ぶことになります。分散していた教育資源を都心のキャンパスに集中し、教育と研究の質を高め、学部・学部の垣根を越えた交流や支援体制の充実を図り、より良い修学環境を実現

します。

このためにご父母・保証人の方々からは学納金をお納めいただき、国からも補助金をいただいておりますが、さらに将来に向けた新規プログラムの展開や施設、設備の充実には多額の資金を要します。本学は多くの方々のご支援を仰ぐことによって、この大きな飛躍を図ることが可能となります。

創立100周年に向け、キャンパスの本郷集約により、教育内容の充実、修学環境の一層の整備を図るため、格別のお力添えを切にお願い申し上げます。

東洋学園 学園長 江澤 雄一
理事長 愛知 太郎

募金目的

- 一、キャンパス教育施設設備の充実
校舎やグラウンド等キャンパスの教育環境の整備を行い、快適で、安全な教育環境を提供します。
- 二、奨学金制度の充実
学業の奨励と経済援助を両輪とし、留学時の負担軽減にも配慮して、有為な人材の育成に資するよう、心の通った奨学金制度を確立します。
- 三、教育・学術等の研究奨励、振興
教育・学術の研究奨励、海外派遣等に資する為、毎年度計画的に基金の増額を図り、効果的運用を推進します。
- 四、学生の課外活動の奨励
大学内のスポーツや文化活動を活性化し、東洋学園大学への愛校心がさらに高められるよう、全学をあげて支援します。
- 五、その他
教育研究の質的向上を図るため、ITを含めさまざまな面から施設環境の一層の充実を図ります。

募金目標額

2千万円

募集期間

平成30年5月～平成31年3月

寄付金種別

1口 1万円（3口以上のご協力をいただきたく存じます）
※金額の多寡に関わらずありがたくお受けします。
ご寄付いただいた方は大学広報誌にお名前を掲載させていただきます。
匿名をご希望の方は、寄付申込書にその旨ご記入ください。

募集対象

在学生とご父母等、同窓生とご家族、教職員その他の本学関係者

申込・送金方法

別紙の寄付申込書にご記入いただき、同封の封筒にてご送付ください。送金につきましては、銀行、郵便局、信用金庫、信用組合等で、同封の振込用紙をご利用いただくか、クレジットカードによりお支払いください。金融機関、クレジットカード会社からの入金通知を受けた後、大学より領収書をご送付申し上げます。税務申告にご利用ください。なお、この募金は「任意」のものです。

お問い合わせ先

学校法人 東洋学園 法人本部
〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 TEL 03-3811-1731

東洋学園大学教育振興資金寄付者ご芳名（敬称略・50音順）

（平成29年4月～平成30年3月までにご寄付いただいた方） 魚島 恵子、氏家 豪、遠藤 まつゑ、落合 埜、小原 真佐子、河野 陽子、齋藤 敏雄、坂 篤郎、酒井 治美、坂本 ひとみ、坂本 則卓、塩田 和則、鈴木 喜久江、玉木 真理、坪井 一子、東洋学園大学同窓会、二宮 誠一、松堂 貴浩、峯岸 真尋、森 たつ子、門奈 玲子、安田 公年、柳田 きくよ、山崎 正雄 他、氏名掲載を許諾された方以外のご寄付者84名

東洋学園の歴史

第6回

本郷・流山キャンパスの変遷

東洋学園史料室

2017（平成29）年9月7日、流山キャンパスは開設50周年を迎えました。1967（昭和42）年に東洋女子短期大学流山校舎として竣工式を挙げて以来、キャンパスは時代の流れに沿って利用形態をさまざまに変え、施設を拡張しながら半世紀の時を刻みました。

同キャンパスの存在は、前身校（1917～1926）を含めた本学100年の歴史の後半50年を占めます。旧制末期には津田沼校舎が存在し（1946～1950）、東洋学園大学も1992年の開学から2006年まで千葉県を

所在地としていました。本学は千葉県に縁の深い学校です。

近年はあらゆる分野で都心一極集中に拍車がかかり、都心に発祥地を持つ大学の多くが高度成長期に設けた郊外キャンパスから撤退し、都心に回帰しています。本学は本郷キャンパスへの教育資源集中「一型都心キャンパス」策を推進し、本年3月に全学部の本郷移転を完了しました。

史料室では流山キャンパスの半世紀を辿る展示を11月末まで延長公開します。

一方、活況を呈する本郷キャンパスは来春、開設100周年を迎えます。

東洋学園公式の創立は1926（大正15）年11月4日ですが、それより7年半さかのぼる1919（同8）年3月、前身校・明華女子歯科医学校（1917年 明華女子歯科医学講習所 →1918年 同歯科医学校 →1921年 同歯科医学専門学校）が本郷区元町の現在地に転じ、最初の校舎を建設しました。来る2019（平成31）年3月には本郷キャンパス100周年の節目となります。

この1世紀は都心の限られた校地を最大限活用すべく再開発に次ぐ再開発、また災害から立ち上がり復興する歴史でした。このため卒業生・教職員とも、世代により思い出の校舎、校舎を含む景観は全く異なります。

2015年度後期に「昭和三年校舎と八つの寄宿舎」で第3代校舎をとり上げました。2019年は大正から現代までの100年を通観します。



第3代校舎は1937年頃に外壁を白く塗り替え、白亜の殿堂と称されました。1945年4月13～14日の第2回大空襲で焼失。



第5代はフェニックス・モザイクの女子短大1～3号館。銀杏並木が戦前から成長していないように見えるのは、戦災後の植え直しだからです。



半世紀にわたり学生、教職員、地域の人々を迎えてきた構内の桜並木。1968年と2018年の定点撮影。2018年度の流山キャンパスはスポーツ関係の授業・実技、課外活動、行事に利用されます。

本郷キャンパスの歴史

初代	1919年	本郷区田町（文京区西片1）から移転
2代	1924年	23年の関東大震災による初代校舎焼失後の再建
3代	1928年	東洋女子歯科医専校舎（写真）
4代	1948年	45年の戦災による焼失後の附属病院再建 →短大初代校舎
5代	1961～70年	東洋女子短期大学1～3号館（写真）
6代	2007年	大学新1号館

※このほか1985年に4号館、2002年に5号館が増築されました。

史料室では、「本郷キャンパス100年・流山キャンパス50年の記録」を開催中。詳しくは8面をご覧ください。

大学院／入試

実務に直結した経営学の学びの場

東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻修士課程

東洋学園大学大学院は創設10周年を迎えました。大学院で分析スキルや統計・事例研究のスキルを磨きませんか。

東洋学園大学大学院は2018年に創設10周年を迎えました。大学院は着実に実績を積み重ね、これまでに約40名の修了生を輩出しています。

本学大学院の特徴は、ほぼ一対一の研究指導体制、都心の好立地、親身で多様性を尊重する学習環境、優れたPC環境、資格取得を支援する環境などです。学生は、経営学の講義、ゼミ指導を通じ、分析スキルや統計・事例研究のスキルを磨いています。

本学大学院は、2017年4月から国際資格であるファイナンシャル・プランナー（CFP*）の認定教育プログラム実施大学院となっています。

本年は、10周年の記念事業としてネパールのKing's Collegeの大学院生を6月に招待し、学術文化交流を行いました。King's Collegeと本学の大学院生はUrban Business Studiesのテーマで共同研究を行い、最終日に研究発表を行いました。

King's Collegeの学生は、本学大学院の教員4名から英語でのレクチャーを受け、東京証券取引所、キッコーマンの知りしゅうゆ館（千葉県野田市）を訪問し、日本のビジネスに対する理解を深めました。

また大学院は10周年を記念し、「研究生制度」を創設いたしました。研究生制度は、本学の大学院修了生あるいは海外の本学協定校の大学院修了生に対し、修士課程における研究テーマをさらに発展させることを目

King's Collegeと本学大学院生との共同研究発表。ネパールで式典などに使用されるKhata スカーフをプレゼントされる。



的に、一定期間本学大学院に在籍することを認める制度です。

大学院はさまざまなバックグラウンドの人々を受け入れ、一部科目は夜間、土曜日も開講しています。

大学院の受験書類の準備をアドバイ

スする出願対策講座は、2018年12月2日（日）に本郷キャンパスにて開催されます。母校でのキャリアアップ、学びなおしに興味がありましたらぜひご参加ください。お待ちしております。

*CFP : Certified Financial Planner

現代経営研究科の特徴

■専門研究分野（一例）

経営戦略、マーケティング、人的資源管理、経営組織論、ファイナンス、会計、日本の経営システム、グローバル人材開発、グローバル経営、国際経済学、労働経済学、環境経営、労働と所得格差、介護ビジネス、スポーツ・ビジネス、デザイン・マネジメント、ソーシャル・ビジネスほか、多彩な研究分野から関心のあるテーマについて学術論文を書くことができます。

※大学院ホームページで過去の修士論文タイトルを公開中です。

<https://www.tyg.jp/faculty/grad/masters.html>

■修了後の主な就職先（一例）

シティバンク銀行株式会社、藍澤証券株式会社、アディダスジャパン株式会社、王子コンテナ株式会社、石川島播磨重工業株式会社、上海住友商事有限公司、その他の民間企業やNPO法人など、幅広い分野で活躍しています。

■大学院ホームページ

<https://www.tyg.jp/faculty/grad/index.html>

お問い合わせ先

大学院事務局 TEL : 03-3811-1696

東洋学園大学入学案内

本学では、校友の皆様にも卒業後も学びの場を提供し続けたいと考えております。

編入学（3年次）や大学院、科目等履修生制度などのキャリアアップ、リカレント教育の場を、学びの段階に応じて設けております。

編入学、大学院入学に際しましては「入学金免除制度」をご用意しております。また、この「入学金免除制度」は皆様のご親族（二親等以内）が本学ご入学の際にもご利用いただけます。懐かしの学び舎が、皆様の新しい学びをサポートします。

■入学金免除制度

本学卒業生ご本人、在学生及び本学卒業生のご親族（二親等以内）が本学に入学の場合、入学金（300,000円）を免除する制度です。※人数の制限はありません。

■編入学（3年次）／大学院

編入学（3年次）

各学部の専門分野への強い関心と学ぶ意欲を持つ方の入学を求めています。

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル化する世界を生き抜き、国際社会で活躍するために、世界についての専門知識や高い英語力を身につけます。▶グローバル・コミュニケーション学科 ▶英語コミュニケーション学科

現代経営学部 ビジネスや経済の中心地で、実在する企業やビジネスを題材にケーススタディ。まさに「現代」の経営を学ぶ学部です。▶現代経営学科

人間科学部 心理、カウンセリング、子ども、社会、スポーツ・・・いろいろな角度から人間を幅広く学び、人を支え社会に貢献する人を目指します。▶人間科学科

大学院

現代経営研究科 現代経営専攻

経営学における専門性と高度な知識を持つ職業人を育成するための高度教育機関です。

※出願資格等については入試室までお問い合わせください。

■科目等履修生制度

東洋学園大学では、大学の持つ知的財産を広く社会に還元するために、科目等履修生制度を開設しています。大学院、学部ともに、開講される授業科目について、正規の学生の教育、研究に支障のない範囲において履修が認められ、単位取得が可能です。短期大学ご在学中に、教職課程を履修されながら課程修了に単位不足の方、新たな学問に取り組みたい方など、ぜひ本制度をご活用ください。本制度を利用して、日本語教員養成課程を履修し、課程修了を目指す短期大学卒業生もいらっしゃいます。卒業生が熱心に勉強に取り組む姿勢は、大学生にも良い刺激を与えてきています。なお、大学院では大学卒業、学部では高校卒業の資格を要するなど、本制度の詳細は以下にてご確認、お問い合わせください。

※検定料等

	検定料	受講料	単位認定料
大学	10,000円	5,000円(1単位当り)	10,000円(1科目当り)
大学院	10,000円	10,000円(1単位当り)	10,000円(1科目当り)

お問い合わせ先 教務課

本郷キャンパス【TEL】03-3811-1785

<https://www.tyg.jp/faculty/complete.html>

お問い合わせ先

編入学、大学院入試、
入学金免除制度について

入試室 0120-104-108（フリーダイヤル）E-mail: nyushi@of.tyg.jp

受付時間：平日（月～金）9:00-17:00 / 土曜日9:00-13:00 ※大学の定めた休日を除く

インフォメーション

卒業生に開かれた学び

東洋学園大学では「開かれた大学」を目指し、研究・教育の蓄積を皆様と広く共有するべく、研究会や公開講座を開催しています。

現代経営研究会

企業の皆様と本学教員との相互研鑽、交流を通じ、現代の経営諸問題について研究し、生きた経営ノウハウを蓄積したいと考え、2008年に大学院創設と同時に「現代経営研究会」を発足いたしました。本研究会は無料でどなたでもご参加いただけます。詳細はHPをご覧ください。

<http://www.tyg-business.jp/>

開催場所：東洋学園大学 本郷キャンパス

1号館 2階 フェニックスホール

※講演は18:00～19:30で聴講無料。



- 11月7日(水) 講師：森トラスト株式会社 代表取締役社長 伊達 美和子氏
演題：『JAPANブランド～都市開発とホテル・リゾート事業の今後～』
- 11月28日(水) 講師：セコム株式会社 代表取締役社長 中山 泰男氏
演題：『2020年、さらに未来へ！～喜びも感動も、安全・安心の先にある～』
- 12月12日(水) 講師：株式会社ソラシドエア前社長 株式会社日本経済研究所代表取締役 高橋 洋氏
演題：『ローカルエアラインの再建に取り組んだ6年間』

公開教養講座(流山)

学内外の講師を招き、現代社会に焦点をあてたテーマで講演していただきます。

(5月～12月開催、全7回) <http://www.tyg-koukai.jp/>

11月10日(土) 講師：東洋学園大学 特任教授 井原 久光氏

演題：『東京ドーム研究』

12月8日(土) 講師：東洋学園大学 准教授 光川 眞壽氏

演題：『中高齢者の健康づくりと最新トレーニング』

13:00～15:00、流山キャンパスにて

各回500円、予約不要。直接会場へお越しください。



お問い合わせ先 東洋学園大学 公開教養講座受付係
【TEL】04-7150-3001(代)

※流山キャンパスでは、英語や中国語などの語学講座をはじめ、テニス、心理学など本学の特徴を活かした講座、絵手紙や色を使ったイメージアップセミナーなど年間100講座を超えるエクステンションプログラムを開講しています。

<http://www.tyg-ex.jp/>

学内施設利用について

図書館利用のご案内(本郷)

利用登録をすれば卒業生も本学図書館を利用することができます。登録は無料。卒業を証明するもの(学位記またはそのコピー、大学からの郵便物、卒業証明書等)と、現住所を確認できるもの(運転免許証、健康保険証等)を図書館カウンターまでお持ちください。「図書館利用証」を発行します。

【利用できるサービス】

閲覧、文献複写、貸出(図書のみ3冊まで、期間：2週間)

詳しくは図書館ホームページをご覧ください。 <https://opac.lib.tyg.jp/>

史料室のご案内(本郷)

【場所】本郷キャンパス4号館6階 【開館日】月～金 9:30～16:30

詳しくは東洋学園史料室ホームページをご覧ください。 <http://www.tyg-archives.jp/>

【企画展】観覧・解説書無料

●本郷キャンパス100年・流山キャンパス50年の記録 1

「流山キャンパスの半世紀」展 [会期] 2018年5月28日～11月30日 ※最終日11月2日から30日に変更

●本郷キャンパス100年・流山キャンパス50年の記録 2

「本郷キャンパスの1世紀」展 [会期] 2019年1～7月 ※予定

各種証明書の発行等について

～2018年4月2日より、郵送先・申込窓口が本郷キャンパスに統合されました～

各種証明書(卒業証明書、成績証明書)の発行

各種証明書(卒業証明書、成績証明書)は、郵送または窓口での申し込みが可能です。いずれも申し込みに必要な書類等がありますので、事前に本学ホームページにてご確認の上お申し込みください。なお、2018年4月2日より、郵送先・申込窓口が本郷キャンパスに統合されました。流山キャンパスでは発行できませんのでご注意ください。

所属	●大学 卒業生 ●大学院 修了生 ●短期大学 卒業生/短期大学専攻科 修了生
郵送先・申込窓口・受付時間	【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 本郷キャンパス教務課 証明書係 【受付時間】月～金曜：9:00～16:30 土曜：9:00～12:30 【HP】 https://www.tyg.jp/graduate/certificate.html ※個人情報の変更は各同窓会へご連絡ください。

東洋学園大学同窓会からののお知らせ

～異動調査ご協力をお願い～

東洋学園大学同窓会からののお知らせです。すでに本会会員の皆様のお手元には本年度の会報、異動調査票(対象卒業期のみ)など一式が届いているものと存じます。異動調査につきましては、本会HP(<http://tgual.jp/>)からも随時受け付けておりますので、本年度が対象となっていない皆様におかれましても、ぜひともご協力をお願いいたします。いただきました会員情報につきましては、厳重な管理を行った上で、同窓会の主旨に基づき、本会の活動、学園、母校の発展、および在学生の後援のために活用させていただきます。

お問い合わせ先 東洋学園大学同窓会室(原則毎週木曜日)
【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 【HP】 <http://tgual.jp/>

東洋女子短期大学同窓会からののお知らせ

事務局は4号館1階に移動しました。なお事務局は昨年度同様、定期的な開室はなしでの運営となります。従いまして、お問い合わせやご質問等には、なるべく早く対応するように努めますが、多少のお時間を頂きたい、ご理解の程よろしくお願いたします。なお、住所変更や会報に掲載する記事につきましては、従来通り、メール、FAX、郵送等にて、同窓会室までお願いいたします。

ご連絡先

【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 東洋学園大学内 東洋女子短期大学同窓会
【FAX】03-3811-5102 【E-mail】 dosokai@ec.tyg.jp
【HP】 <https://www.tyg.jp/graduate/index.html>

校友会事務局より

この11月に学校法人東洋学園は92周年を迎え、第7号となる本誌は国内のみならず、海外で活躍されている校友もあわせて約24,500名にお送りしています。記事にもある通り、マイクロソフトオフィスのスキル競技で日本一になる学生や、全日本サーフィン選手権で5位に入るなど、輝かしい結果を出している在学生がいます。校友各位におかれましてはぜひ、「東洋学園ファミリー」として今後ともサポートをお願い申し上げます。【企業で活躍されている卒業生の方へ】就職活動中の学生によるOB・OG訪問を受け入れてくださる方を募集しています。業界や企業への理解、就職観などを伝えてくださる方、就職支援に関わっていただける方は事務局までご連絡ください。

校友会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3
東洋学園大学 本郷キャンパス4号館2階

TEL 03-3811-1072

E-MAIL koyukai-info@tyg.jp

ホームページ <http://tgblog.tyg.jp/koyukai/>